

オビディエンス試験・競技について

1. 出陳規定

- (1)オビディエンスビギナーⅠ・Ⅱは競技会のみとなります。
- (2)オビディエンスⅠ～Ⅲは、競技と試験が同時となり、競技会の得点(成績)がそのまま試験の得点(成績)となります。
 - ①オビディエンスは、競技会会場でのみ実施します。(公認訓練所不可)
 - ②出陳料と受験料が必要となります。(出陳のみ、試験のみという選択は不可)
 - ③出陳するクラスの試験に合格登録済みの場合は、出陳料のみとなります。
- (3)出陳(受験)資格
 - ①オビディエンスビギナーⅠ・Ⅱの出陳資格は、本会会員所有の生後9カ月1日以上の本会登録犬(ウェイティングリスト登録犬を含む)または本会の非公認犬種・本会の非公認団体登録犬・交雑犬となります。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲへの出陳(受験)資格は、FCI公認犬種で本会会員所有の本会登録犬(ウェイティングリスト登録犬を含む)又はFCI加盟団体登録犬とし、それぞれ次の年齢となります。
オビディエンスⅠ・Ⅱ…生後9カ月1日以上
オビディエンスⅢ…生後15カ月1日以上
 - ③Ⅱ・Ⅲの出陳(受験)は、下のクラス出陳時に合計得点224点以上獲得、かつ下のクラスの試験合格登録をしていなければなりません。
- (4)重複出陳
 - ①オビディエンスビギナーⅠ・Ⅱと、準初等科・初等科・中等科・準高等科・高等科・特別犬の部(本会登録犬以外)・臭気選別の部のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲと、中等科・準高等科・高等科・服従スペシャル・臭気選別の部のいずれか1つのクラスに重複出陳できます。

2. 申込方法

所定の出陳申込書並びに受験登録申請書に必要事項を記入し、所定の料金を添えて、締切日までに本部必着(消印無効)となるようにお申し込み下さい。

- ①出陳料 1頭につき 10,000円
- ②受験料 1頭につき 5,400円

<オビディエンスⅡ・Ⅲにお申し込みされる方へ>

オビディエンス手帳の見開きページをコピー添付して、お申し込み下さい。コピー箇所は、下のクラス出陳時の獲得点数224点以上が記載されたページをお願いします。

3. 審査規定

- (1)審査は、本会公認審査員により厳正公平に採点いたします。
- (2)競技課目は「9. 競技クラス」を参照して下さい。実施要領については本会ホームページをご参照ください(<https://www.jkc.or.jp>)。
- (3)同点の席次決定は以下の通りとします。
 - ①オビディエンスビギナーⅠ・Ⅱの総合得点が同点の場合、担当審査員が判定します。
 - ②オビディエンスⅠ～Ⅲの総合得点が同点の場合、指定課目の合計得点の高いものを上位とします。指定課目の合計得点も同点の場合は、担当審査員が判定します。
オビディエンスⅠの指定課目・・・科目2・4・5・9
オビディエンスⅡの指定課目・・・科目2・4・5・10
オビディエンスⅢの指定課目・・・科目3・5・6
- (4)得点は、課目の終了ごとに審査員が掲示します。
 - ①得点は、5点～10点(0.5点刻み)とし、5点未満は全て0点となります。
 - ②課目の得点は、審査員が掲示した得点に、課目で定められた係数を乗じたものとなります。
【例：8点(審査員)×3(係数)=24点(当該課目の得点)】

4. 試験の可否

- (1)満点を320点とし、合計得点が192点(60%)以上を合格とします。
- (2)一つの課目が0点であっても、合格点に達していれば合格となります。

5. 試験の評価

満点を320点とし、合計得点によって評価します。

- V(優)・・・256点以上
SG(特良)・・・224点以上 256点未満
G(良)・・・192点以上 224点未満

6. T.CH.P

- (1)オビディエンスビギナーⅠは満点を160点とし、合計得点が128点

- (80%)以上の得点を得た本会登録犬に、トレーニングチャンピオンポイント(以下T.CH.P)3ポイントを付与します。
- (2)オビディエンスビギナーⅡは満点を210点とし、合計得点が168点(80%)以上の得点を得た本会登録犬に、T.CH.P5ポイントを付与します。
- (3)オビディエンスⅠ～Ⅲは満点を320点とし、合計得点が256点(80%)以上の得点を得た犬に、メジャー・トレーニングチャンピオンポイント(以下M.T.CH.P)10ポイントを付与します。
- (4)同一犬が、複数のT.CH.P及びM.T.CH.Pを取得した場合、1クラスのみ有効とします。家庭犬とオビディエンスで重複した場合も同様に1クラスのみ有効とします。有効とするポイントは出陳者の方が選択してください。
- (5)ウェイティングリスト登録犬及び本会登録犬以外の犬は訓練チャンピオン資格犬にはなりませんので、T.CH.P及びM.T.CH.Pは付与されません。

7. 注意事項

- (1)競技進行は、全てスチュワードが行います。
- (2)脚側行進のコースは、当日の朝に発表します。
- (3)チョークチェーンで、犬の首が絞まる状態は不可とします。
- (4)リードを外して肩にかける場合は、留め具は右側(犬側不可)の位置とします。
- (5)各課目終了後に軽く褒めることは認められます。(犬を軽く撫でる程度)
- (6)発情犬は、クラスの最後の組で競技することとします。
頭数によっては、ダミー犬を使用します。

8. オビディエンスチャンピオン(以下OB.CH)、グラントビディエンスチャンピオン(以下G.OB.CH)並びにFCIインターナショナルオビディエンスチャンピオン(以下C.I.OB.)登録制度

- (1)OB.CHについて
 - ①OB.CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスビギナーⅠ、オビディエンスビギナーⅡ、オビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでT.CH.Pを20ポイント以上取得した犬に与えられる。
 - ②取得したT.CH.Pのうち2枚以上は、オビディエンスⅠ以上で取得したものでなければならない。
 - ③DNA登録がされてなければならない。
- (2)G.OB.CHについて
 - ①G.OB.CH登録資格は、訓練競技会におけるオビディエンスⅠ、オビディエンスⅡ、オビディエンスⅢでT.CH.Pを60ポイント以上取得した犬に与えられる。
 - ②取得したT.CH.Pのうち、オビディエンスⅡ並びにオビディエンスⅢを各1枚以上で取得したもの、またはオビディエンスⅢを2枚以上で取得していなければならない。
 - ③OB.CH登録を完了していなければならない。
- (3)キャッシュオブ(以下CACIOB)について
 - ①訓練競技大会(本部主催)並びにFCIインターナショナルトライアルのオビディエンスⅢの1席犬で、得点が256点以上の場合にCACIOBが付与されます。
 - ②前項の犬がC.I.OB.の資格条件を達成している場合、次席犬で得点が256点以上の場合にリザーブキャッシュオブ(以下R.CACIOB)が付与されます。
 - ③ウェイティングリスト登録犬に交付されたCACIOBは無効となります。
 - ④CACIOB及びR.CACIOBは当日仮証を発行し、後日後日FCIによって承認されたものは本証が発行されます。
- (4)C.I.OB.について
 - ①資格条件は異なる審査員が発行した2枚のCACIOBを取得すること。ただし、最終のCACIOBの取得は、最初のCACIOB取得日から1年1日以上経過していなければなりません。
 - ②DNA登録。
 - ③オビディエンスⅢの訓練試験資格の登録。
 - ④FCIインターナショナルビューティーチャンピオン又は、FCIインターナショナルショーチャンピオンの資格を取得しているか、FCIインターナショナルドッグショーでグッド以上の評価。
 - ⑤C.I.OB.の登録資格を満たした場合、本会は速やかに当該犬の所有者に通知します。通知の到着日から3カ月以内に登録を完了しなければなりません。

9. 競技クラス

オビディエンスビギナーⅠ

課題1. 犬と対面しての30秒間の停座（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により指導手は犬に待てを命じ、引き綱を弛ませた任意の距離で犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。

（係数3 最高得点30点）

課題2. 犬と対面しての30秒間の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、引き綱を放し犬に待てを命じ、約5m離れて犬と対面する。

約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を手を持ち終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

課題3. 紐付き脚側行進

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。

準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E止まれ、F速歩を含んだ脚側行進を行い、指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。

出場犬は原則的に同じコースで行う。

回れ右の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

課題4. 行進中の伏臥（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により脚側行進を行う。指示により伏臥を命じると同時に引き綱を放し、指導手のみ行進し指示により対面する。指示により指導手は犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により脚側停座させ、指示により引き綱を手を持って終わる。

（係数3 最高得点30点）

課題5. 伏臥を伴う招呼（紐付）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させて待機する。

指示により犬を伏臥させ、引き綱を放す。指示により指導手は犬に待てを命じ、指示された方向に約5m離れて対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させる。さらに指示により引き綱を持ち、指示により行進をして、指示により脚側停座で終わる。対面停座した場合のみ、脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数4 最高得点40点）

課題6. 扱い方 人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

オビディエンスビギナーⅡ

課題1. 犬と対面しての30秒間の停座（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により引き綱を外し、指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約30秒間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により終わる。引き綱を外した時点から犬を触ってはならない。外した引き綱は、指導手の肩にかける。

（係数2 最高得点20点）

課題2. 犬と対面しての1分間の伏臥（声符のみ）

指導手は、所定の位置に犬を脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により脚側停座の状態から、1頭ずつ伏臥を命じる。最後の指導手が犬を伏臥させた後、指示により犬に待てを命じ、約10m離れて犬と対面する。約1分間経過後、指示により指導手は常歩で犬の左側から後方を通り犬の元へ戻り、指示により1頭ずつ脚側停座（右側から伏臥を指示した場合、脚側停座は左側から順に指示する。）させ、指示により引き綱を付けて終わる。

1頭ずつ犬を伏臥または脚側停座させる際に、犬が他の指導手の命令で行動した場合、新たな命令をしてはならない。（犬はその状態のままとする。）

（係数2 最高得点20点）

課題3. 紐付き脚側行進（声符のみ）

出発点で犬を脚側停座させる。指導手は左手に引き綱を持ち待機する。準備が確認されたら、指示によりA前、B右へ（90度）、C左へ（90度）、D回れ右、E回れ左、F止まれ、G速歩を含んだ脚側行進を行う。指示により指導手は停止し、犬に脚側停座させ、指示により終わる。

スタート時及び歩度変換の際は、声符を与えなければならない。ただし、乱用及び誘導的な指導手の態度は、その程度に応じて減点される。出場犬は原則的に同じコースで行う。回れ右・回れ左の場合、指導手と犬はともに同じ方向に回らなければならない。

（係数3 最高得点30点）

課題4. 紐無し脚側行進（声符のみ）

指導手は、犬に引き綱を付けて出発点で待機し、指示により引き綱を外し、指導手の肩にかけて、課題3の要領で行う。

（係数4 最高得点40点）

課題5. 行進中の伏臥及び招呼（声符のみ）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は、常歩で脚側行進し、約5mの地点で指示により伏臥を命じる。指導手は止まる事なく振り返らず、引き続き約10m直進し対面する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか、又は指導手の直前に一旦対面停座してから、脚側停座させて終わる。対面停座した場合のみ、脚側停座を促す声符をかけることができる。

（係数3 最高得点30点）

課題6. 前進（声符及び視符）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させて待機する。指示により指導手は犬に待てを命じ、約10m前方の3m四方の区域内に引き綱を置き、犬の元へ戻り、指示により犬を前進させ、3m四方の区域内で停止させる。（犬は停座、伏臥、立止のどの状態でも良い）

指示により指導手は、常歩で犬の左側から後方を通り、犬の元に戻り、指示により基本姿勢をとらせて終わる。犬を前進させる時のみ声視符同時なら許される。犬の体の一部が区域内に接している場合は、状態に応じて減点とし、区域外であれば区域内に入る命令をかけても良いが、減点となる。また、四隅のコーンに犬の鼻が触れると減点となる。引き綱は、3m四方の区域内のどの場所に置いて良いが、反射する色の引き綱は認められない。3m四方の各コーナーにはコーンを置く。

（係数3 最高得点30点）

課題7. 遠隔操作（声符及び視符）

犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により指導手は犬に待てを命じ、常歩で指示された方向に約10m離れて対面する。指示により犬を伏臥させる。指示により指導手は常歩で、犬の左側から後方を通り犬の元に戻り、指示により脚側停座させて終わる。指導手の命令は、犬の姿勢を変える時のみ、声視符同時なら許される。

（係数3 最高得点30点）

課題8. 扱い方 人／犬

指導手と犬との調和と稟性。

（係数1 最高得点10点）

オビディエンスⅠ

課題1. 1分間のグループ停座（指導手は視野内）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により指導手は、約15m離れて所定の位置で犬と対面する。この時点で時間計測される。1分間経過後、指示により常歩で、犬の後方約3mの位置で犬の方に向けて静止する。指示により犬の元に戻り、指示により終わる。

【紐付きでの入場は認められるが、作業中は犬の視野外とする。】

（係数3 最高得点30点）

課題2. 紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩（右折・左折・反転ターン・停止）、速歩（右折・反転ターン・停止）、2～3歩の前進及び後退を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。

【作業時間は、1分間までとする。】

（係数4 最高得点40点）

課題3. 行進中の1姿勢（立止・停座・伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により約10mを常歩で脚側行進し、指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、指導手は更に約10m直進し所定の位置で犬と対面して静止する。約3秒後、指示により犬に向かって進み、犬の右側約50cm離れて通り、犬の後方約1～2mで指示により反転ターンをして犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【指定姿勢は、事前告知される。】

（係数3 最高得点30点）

課題4. 招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約20～25m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。招呼声符と犬名の連続発声は認められる。】

（係数4 最高得点40点）

課題5. 指定範囲への送り出し及び伏臥

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により犬を約15m離れた約3m四方の指定範囲へ送り出す。指定範囲で犬が伏臥したら指示により犬の元に進み、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるかを審査員に告げる。立止させた場合は、約3秒後に指導手判断にて伏臥させる。指導手と犬が離れた状態での声符と視符の同時使用が認められる。】

（係数4 最高得点40点）

課題6. 遠隔操作による4姿勢変更（停座／伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約5m離れた所定の位置に進み犬と対面して静止する。指示により、姿勢変更を4回実行（停座→伏臥→停座→伏臥）する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

（係数4 最高得点40点）

課題7. 障害飛越を伴うダンベル持来

指導手は、障害から約2～4m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。ダンベルを受け取り、指示によりダンベルを投てきし、指示により飛越持来させる。犬は持来したら、直接脚側停座するか対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は受け取り後、指示により脚側停座させる。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は50cmとする。】

(係数4 最高得点40点)

課題8. コーン群又はパレル回り作業を含む単独往復走行

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により、約10m離れたコーン群又はパレル回りを実行させる。回り方は左右どちらでも可能とする。指導手の元に戻り、直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。コーン群は3～6個とし、高さ40～50cm・奥行70～80cm、パレルは直径70～80cm・高さ40～50cmとする。】

(係数4 最高得点40点)

課題9. 作業総合印象

作業意欲、正確性、指示に対する服従性、指導手と犬によるチームワーク及び自然な動作、スポーツマンシップ等が重要視される。作業スピードは、犬種の特徴が考慮される。課題中の排便、排尿はその課題と作業総合評価目が0点となる。

(係数2 最高得点20点)

オビディエンスⅡ

課題1. 2分間のグループ伏臥（指導手は犬の視野外待機）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約3mとし、横一列で3頭～6頭並ぶ。）指示により、1頭ずつ左から右へ順番に伏臥を実行する。最後の犬が伏臥をした後、指示により、犬から見えない場所に指導手のみ離れる。この時点で時間計測される。2分間経過後、指示により指導手は指定の位置で犬と対面して静止する。指示により常歩で、犬の後方約3mの位置で犬の方に向けて静止する。指示により犬の元に戻り、指示により右から左へ順番に脚側停座させて、指示により終わる。

【伏臥中に1頭ずつ連続8の字等の誘惑行為を受ける。他の犬に影響を及ぼす大きな声符は、減点とする。】

(係数3 最高得点30点)

課題2. 紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩・速歩・緩歩・右折・左折・反転ターン・停止・2～3歩の前進及び後退・2～3mの後退歩行等を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。

【作業時間は、2分間までとする。】

(係数4 最高得点40点)

課題3. 行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により、指定された方向へ常歩で脚側行進し、約5mの地点で、指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、更に5m先の目印まで進み、指示により反転ターンして犬の元に進み、犬の右側約50cm離れて約2m通過し、指示により反転ターンして犬の元に戻る。犬に到達したら、指導手は止まることなく脚側行進を実行し、約5m先の目印で右（左）折し、更に約5mの地点で指示により指定姿勢を歩度を変えずに実行し、更に約5m先の目印まで進み、指示により反転ターンして犬の元に進み、犬の右側約50cm離れて約2m通過し、指示により反転ターンして犬の元に戻る。犬に到達したら、指導手は止まることなく脚側行進を実行し、約5m先の目印で指示により止まり、指示により終わる。

【指定姿勢は、事前に告知される。】

(係数3 最高得点30点)

課題4. 立止を伴う招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約25～30m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。約半分の地点で立止を実行し、約3秒後、指示により再度犬を招呼し、犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。立止の実行は、声符と視符の同時使用が認められる。立止地点には目印が記される。】

(係数3 最高得点30点)

課題5. 指定範囲への送り出しと伏臥及び招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により犬を約23m離れた約3m四方の指定範囲へ送り出す。指導手は指定範囲で犬が伏臥したら、指示により常歩で右側のコーンへ進み、コーンから約2m手前の地点で指示により左折し、約3m進み指示により左折し出発点に進む。更に約10mの地点で指示により招呼し、止まることなく犬を脚側行進させて、指示により停止し、指示により終わる。

【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるか審査員に告げる。立止させた場合は、約3秒後に

指導手判断にて伏臥させる。招呼時に一瞬振り向くことは認められる。】

(係数4 最高得点40点)

課題6. 遠隔操作による方向変換を伴うダンベル持来

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（この時点で作業開始が告げられ、ダンベルが配置される。）指示により、脚側行進で約5m離れた目印を1～2m通過し、指示により反転ターンして目印の前で歩度を変えずに立止を実行し、出発点に戻り犬と対面して静止する。約3秒後、指示により事前に抽選したダンベルを持来させる。犬は持来したら、直接脚側停座するか対面停座して、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。左右の抽選は、作業前に行われる。】

(係数3 最高得点30点)

課題7. 木製物品6個からの選別作業

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指導手は本物品を受け取り、約10秒間手で保持する。この時点で犬が物品に触れる、嗅ぐ行為は認められない。指示により物品を渡し、指示により反転する。（指導手のみ反転するか、指導手と犬が共に反転するかは指導手判断とする。）物品配置後、指示により反転し、指示により物品選別持来させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座して、指示により物品を受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は受け取り後、指示により脚側停座させる。各物品は、円状・垂直線・水平線に約25cm間隔で配置される。垂直線・水平線に配置される場合は、本物品が両端になる事は認められない。作業時間は、約30秒とする。】

(係数3 最高得点30点)

課題8. 遠隔操作による6姿勢変更

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約10m離れた所定の位置に進み、犬と対面して静止する。指示により指定姿勢変更を6回（停座→立止→伏臥→停座→立止→伏臥／立止→停座→伏臥→立止→停座→伏臥）実行する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

(係数4 最高得点40点)

課題9. コーン群又はパレル回り作業を伴う単独往復走行、静止（立止・伏臥）及び障害飛越

指導手は、各障害を結ぶ想像上の線より約5m～7m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。（この時点で、コーン群・パレル等の設置は完了している。）指示により、約15～17m離れたコーン群、又はパレル回りを実行させ、犬が折り返して最低2m進んだ地点で静止させる。約3秒後、指示により指定された障害を飛越させる。犬は飛越したら、直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座し、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。飛越する障害は事前に抽選されるが、作業中の静止後に告げられる。静止の姿勢は立止か伏臥とし、事前に告げられる。静止の命令は、声符と視符の同時使用が認められる。コーン群は3～6個とし、高さ40～50cm・奥行70～80cm、パレルは直径70～80cm・高さ40～50cmとする。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は50cmとする。】

(係数3 最高得点30点)

課題10. 作業総合印象

作業意欲、正確性、指示に対する服従性、指導手と犬によるチームワーク及び自然な動作、スポーツマンシップ等が重要視される。作業中及び課題間の全行動が反映される。犬がリングを離れた場合（課題1は除く）や、排便、排尿は失格となる。

(係数2 最高得点20点)

オビディエンスⅢ

課題1. 2分間のグループ停座（指導手は犬の視野外待機）

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（それぞれの犬の間隔は約4～5mとし、横一列で3～4頭並ぶ。）指示により、犬から見えない場所に指導手のみ離れる。この時点で時間計測される。2分間経過後、指示により指導手は、指定の位置で犬と対面して静止する。指示により、犬から約10m離れた指定の位置へ進み、指示により終わり、課題2が実行される。

(係数2 最高得点20点)

課題2. 1分間のグループ伏臥及び招呼

指導手は指示により、1頭ずつ左から右へ順番に伏臥を実行する。全犬伏臥後に時間計測される。1分間経過後、指示により1頭ずつ右から左へ順番に招呼する。招呼後、直接脚側停座するか対面停座した場合は、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【他の犬に影響を及ぼす大きな声符は、重度の減点とする。スチュワードは、各犬が完全に脚側停座した後次に次の犬の元へ進む。】

(係数2 最高得点20点)

課題3. 紐無し脚側行進

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により常歩・速歩・緩歩・右折・左折・反転ターン・停止・2～3歩の左右及び前後への歩行・5～10mの後退歩行・その場での左右への方向変換及び反転ターン等を含んだ脚側行進を行い、指示により終わる。

【課題の途中に課題4「行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）」が実行される。作業時間は4.5分間までとする。】

(係数4 最高得点40点)

課題4. 行進中の2姿勢（立止・停座・伏臥）及び招呼

課題3の紐無し脚側行進作業中の停止後に、課題4への移行が指示される。

指導手は、事前に告知された作業をスチュワード指示により実行し、指示により終わる。課題4終了後、指示により課題3の脚側行進が再実行され、指示により終わる。

【指定2姿勢及び招呼の実行は、それぞれ明確に指示される。作業内容は事前に告知される。】

(係数3 最高得点30点)

課題5. 2姿勢（立止・停座・伏臥）を伴う招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約30～35m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により犬を招呼する。犬が約三分の一地点に達したら指定姿勢を実行し、静止させる。約3秒後、指示により招呼し三分の二地点に達したら指定姿勢を実行し、静止させる。約3秒後、指示により招呼する。犬は直接脚側停座するか対面停座してから脚側停座して、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。指定姿勢は事前に告知される。指定姿勢指示は、声符と視符の同時使用が認められる。静止地点には目印が記される。】

(係数3 最高得点30点)

課題 6. 方向変換を伴う指定範囲への送り出しと伏臥及び招呼

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により約10m前方の指定円内（半径約2m）に送り出し、立止を実行する。約3秒後、指示により円から約23m離れた右（左）の指定範囲（約3m四方）へ送り出す。指定範囲で犬が伏臥したら、指示により常歩で犬の元に進み、指定範囲から約2m手前で、指示により右（左）折して約10m進み、指示により右（左）折し出発点に進む。約10mで指示により招呼し、指導手は止まることなく犬を脚側行進させて指示により停止し、指示により終わる。

【作業開始前に、指定範囲にて直接伏臥させるか立止させるか審査員に告げる。指導手と犬が離れた状態での声符と視符の同時使用が認められる。招呼時に一瞬振り向くことは認められる。】

（係数4 最高得点40点）

課題 7. 遠隔操作による方向変換を伴うダンベル持来

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。（この時点で作業開始が告げられ、3個のダンベルが配置される。）指示により、約20m前方中央のダンベルに向かって、最低10m前方まで犬を送り出し、立止を実行する。約3秒後、指示により事前に抽選したダンベルを持来させる。犬は持来したら直接脚側停座するか対面停座し、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。ダンベルの抽選は事前に行われる。】

（係数3 最高得点30点）

課題 8. コーン群又はバレル回り作業と指定姿勢実行（立止・停座・伏臥）並びに方向変換と障害飛越を伴うダンベル持来

指導手は、各障害を結ぶ想像上の線より約5m～7m離れた任意の位置に犬を脚側停座させる。（この時点で、コーン群・バレル等の設置は完了している。）指示により、約20～22m離れたコーン群又はバレル回りを実行させ、犬が折り返して約2m進んだ地点で指定姿勢を実行させる。約3秒後、指示により指定されたダンベルを持来すると共に障害飛越を実行させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座して、指示によりダンベルを受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。指定姿勢は事前に告知される。指定されるダンベルと障害は事前に抽選されるが、作業中の静止後に告げられる。ダンベルと障害の距離は約6mとする。静止の命令は、声符と視符の同時使用が認められる。コーン群は3～6個とし、高さ40～50cm・奥行70～80cm、バレルは直径70～80cm・高さ40～50cmとする。障害の高さは概ねキ甲に比例し、最大設定高は60cmとする。】

（係数4 最高得点40点）

課題 9. 木製物品6～8個からの選別作業

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指導手は本物品を受け取り、約5秒間手で保持する。この時点で犬が物品に触れる、嗅ぐ行為は認められない。指示により物品を渡し、指示により反転する。（指導手のみ反転するか、指導手と犬が共に反転するかは指導手判断とする。）物品配置後、指示により反転し、指示により物品選別持来させる。持来後、直接脚側停座するか対面停座し、指示により物品を受け取り、指示により終わる。

【対面停座した場合は、指示により脚側停座させる。配置パターンはガイドライン参照。作業時間は、約30秒とする。】

（係数3 最高得点30点）

課題 10. 遠隔操作による6姿勢変更

指導手は、犬を所定の位置に脚側停座させる。指示により伏臥させ、指示により約15m離れた所定の位置で犬と対面して静止する。指示により指定姿勢を6回（各姿勢を2回実行する。）実行する。指示により犬の元に戻り、指示により脚側停座させ、指示により終わる。

【姿勢変更の指示は、犬から目視不可能な位置から約3秒間隔とする。】

（係数4 最高得点40点）